

平成18年9月12日（火）

（午後3時5分 再開）

○議長（上田順康君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番15、16番 中谷 晋君。

〔16番（中谷 晋君）登壇〕

○16番（中谷 晋君）本定例議会において、通告に従い一般質問をいたしたいと思えます。

まずはじめに、先般6日に秋篠宮妃殿下紀子さまが男の赤ちゃんを出産されました。誠にめでたく、心からお祝いを申し上げ、お子さまの健やかな成長を祈りたいと思えます。

それでは本題に入ります。バブル崩壊後、我が国を取り巻く情勢は大きく変化しつつあり、世界のほとんどの国が自由主義経済体制に移行する中、超大国の主義主張の通用する外的環境や条件により、日本国自身の発想の転換、社会全体の制度やシステムの変革が求められていると思えます。

そのような中で、教育の再検討は第一に取り組まなければならない問題と認識いたしているところであります。このような我が国の社会状況の中で、極めて憂慮すべき劣悪な犯罪や凶悪な事件の年少化傾向と家庭内暴力、親と子どもの殺傷事件など、少子高齢化時代の中で何とも悲しい報道が毎日のようにされています。

一時代前は、近所の子どもたちが群れて遊んで大人もつかず離れず世話をし、そのかわりが濃かった。このような状況を子どもは地域に放牧されて育ったと言われています。放牧とは、子ども同士が遊びの中で切磋琢磨し、近所のおばさんたちに世話を焼かせたり、そういう中で器用さや体の能力、社会性を培ってきたと思えます。夕方には厩舎となるべ

く我が家に帰り、お手伝いをしながら親と子が今のようなカプセル状況にならずに子育てと意識する必要がなかったとも言われる、ある学者の報告があります。まさにそのとおりで、ゆとりある自然的な教育方法ではないかと思慮いたしているところであります。

このような教育環境の整備は、それぞれの地域地域にとって最重要な案件であると受けとめていますが、そこで現代風の放牧の環境という、当然幼稚園や保育所、小学校などの公的施設であろうかと思えます。

質問の内容につきましては、先ほど来の18番議員と重複するところがあるかと思えますが、私の質問の一端としてお聞きいただきたいと思えます。

施設の1点目、高野口小学校改修についてであります。型にはまった教育環境をつくり出す施設を考慮されているのか。ゆとりというか、先ほど述べましたような放牧するというような環境への移行を助長すべき施設の構築を図るべきではないかと私自身が思考しています。このような観点から、本年3月1日以降の取り組みの経緯を再度お聞きしたいと思えます。重複するところは、はしょっていただいて結構かと思えます。

2点目の変更に係る委託についてですが、本校改修については、特性をできるだけ生かし、集団の集い、ゆとりの教室等議論する中で、答弁の中にもありましたが、体育館とプール並びに幼稚園は校庭西側へ移築する方向で地域が検討、協議してきた経緯があると思えます。合併以降、それまでの合併の幹事会や新市まちづくりの協議等でどのような考え方に変わり、予算措置をとったか。基本部分をお聞かせ願えたらと思えます。

3点目についてでございますが、18番議員の質問で前向きなご回答をいただきましたので省略いたしますが、平成19年度に予算付けを行うという確たる要望を本席からいたしておきたいと思っております。

題材の2点目、市民病院の運営並びに風評の件についてお聞きしますが、本年5月に全国自治体病院経営都市議会協議会が開催され、その報告の中で、自治体病院はたび重なる医療制度改革、診療報酬の見直しなど、急激な医療提供の環境変化等で約7割が赤字という厳しい状況にあると報告されています。このような状況は、自治体の財政運営に対しても極めて憂慮すべき実態であろうかと認識します。

しかし、自治体病院は社会的使命を達成し、地域住民のニーズに応じなければならないという大義があります。本院の理念である、医療を介して地域の発展に尽くす、心の通う医療で地域住民の健康保持、増進に尽くす、中核病院としての機能の向上に尽くす、以上の理念の進化を図るための具体的な取り組みについてお尋ねいたしたいのが1点目でございます。

良質で透明性の高い病院経営に取り組んでいる現場実態であろうという認識はしていますが、ちまたで一部ある誤った悪い風評等が流れています。その件について、その対応なり、取り扱いについてお尋ねいたすものであります。

以上、壇上からの質問を終わります。

**○議長（上田順康君）** 16番 中谷君の一般質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

**○教育長（森本國昭君）** 中谷議員のご質問にお答えいたします。

高野口小学校改修につきましては、さきの

妙中議員にもお答えいたしました。まず1点目の高野口小学校改修についての経緯につきましては、旧市町の合併協議におきまして協議された新市まちづくり計画に校舎の改修、整備はうたわれておりますが、個々の改修、整備についての事業着手年度等は新市において協議となっております。高野口小学校改修においても、設計書の完成が2月末であり、事業着手年度等につきましても、新市の政策調整会議に諮り、設計内容の見直しと財政面から18年度は見送りと結論をいただいたところでございます。

次に、見直しに関し委託の基本的な考え方でございますが、基本は木造校舎を生かしての改修は踏襲し、プール、屋内運動場とも他の学校との均衡を考慮するというところでございます。

具体的には、各学年に設けられておりますオープンスペース、ランチルームの見直し、プールを2階から1階にし、それに伴う施設の廃止や縮小、幼稚園についても現校舎に残す見直しを検討することになりました。このことにより、6月市議会定例会で1,000万円的设计変更をお認めいただいたところでございます。この基本に沿って見直し案ができ次第、保護者の方々に説明をさせていただく予定でございますので、ご理解をいただきたいと思います。

**○議長（上田順康君）** 病院事業管理者。

〔病院事業管理者（石井敏明君）登壇〕

**○病院事業管理者（石井敏明君）** 橋本市民病院の運営についてでございますが、診療科の充実に向け、本年4月には心臓血管外科の新設と健診センター医師の常勤化を、また6月には呼吸器外科の新設をすることができました。この結果、医師数も平成17年度より6名の増員となり、現在常勤医師38名となる中で、収益の増につなげることができつつあります。

また、看護においても基準看護を2.5対1から2対1に充実させ、より高い施設基準と手厚い看護をめざしております。地域、医師との連携についても、地域医療連携室が中心となって推進し、伊都医師会との連携を深め、現在では懸案事項でありました副院長が伊都医師会の理事に就任しております。

また、風評についてのご指摘ですが、本院では患者さま及び来院者のご意見をお聞かせいただくべく、院長への伝書箱を設置、職員一同真摯に受けとめ、対応方法を考慮するとともに、入院アンケート、外来アンケートを再三実施し、患者さま及び来院者が本院の現状をどう受けとめておられるか把握することに力を注ぎ、問題点があれば改善するよう努力いたしております。

また、内部的には、日本医療機能評価機構の病院機能評価を受診し、高い評価を得るとともに、本年7月からは厚生労働省よりDPC病院として認定される等、病院機能の充実に努め、患者さまに安心して受診していただける病院づくりに取り組んでおります。なお、DPC認定病院は県下では和歌山医大、南和歌山医療センター及び本院の3病院だけでございます。今後地域の中核病院として、より一層良質な医療を提供できるよう努めるとともに、300床の病院運営をめざして努力してまいります。

以上です。

○議長（上田順康君）16番 中谷君、再質問ありますか。

16番 中谷君。

○16番（中谷 晋君）1点目の学校の改修の件については懇切丁寧な説明をいただきましたので、概ね満足いたしているところでありませうけれども、私自身、先週の8日に県によりますところの市町村の合併フォーラムが田辺市でありました。それに参加いたしまして

勉強してきたところでありますけれども、その中で合併前と合併後との題材で、新田辺市長より体験を踏まえた事例報告がございました。その中で、合併について後退した考え方で対応してはだめだと。苦しいのはどこを探しても日本国中非常に苦しいでしょうということの中で、感銘したのはメリットをできるだけ早く出していくべきであると。そういう中で行財政効果の説明を十分に住民に説得、説明するべきであるという説明を受けた中で、先ほど来議員が職員の云々ということが出ておりましたけれども、田辺市では初年度平成18年度で66名の職員を一気に削減した事例をあえて住民側にPRしているというようなことがありました。これは余談ですけれども。そういう中で合併した新市に老朽化の学校が二つあって、その予算を率先してつけたと。これは合併で財政が非常に苦しい中ではあるが、一つの見解として予算付けを政治姿勢として行ったということでありました。1校については14億3,300万円、他の1校については9億5,200万円の予算措置で、校舎建て替えの材料については合併して大きな山がいくつも転がり込んできたという語弊がありますけれども、山林の増えた中でできるだけ良材を伐採して温もりある木の素材を使って改築する姿勢であるという報告を受けて、なるほどなというふうに感銘いたしてきたところです。

先ほど来、教育長のほうから平成19年度には予算措置を行うということでありましたが、これは絶対に避けて通れない仕事でありますので、再度本席から要望いたしておきたいと思っております。

題材の2点目の病院の件でございますけれども、運営等については報告のとおり伊都医師会の連携やお聞きする地域連携室の創設など、非常に前向きな対応をされていることに安堵するとともに、優秀な管理者や病院長が

いますので、職員一同一致団結して取り組んでいただくようお願いいたしておきたいと思いをします。

1点、風評被害については、具体的には差しさわりがあると思えますので、発言は控えますが、そのような声があることは事実でありますので、その認識を十二分に受けとめていただき、今後についてはそういうことのないように、言われるように受診者の増加を図るべく、また地域住民への良質なサービス提供を基本的な姿勢として病院の運営に取り組んでいただきたいと思えます。その1点について管理者のご意見をお聞かせ願いたいと思いをします。

○議長（上田順康君）病院事業管理者。

○病院事業管理者（石井敏明君）おただしをいただきました風評被害についてでございます。病院におきましては、さまざまな患者さんをさまざまな形で預かっております。中でいろいろと職員との間で、また診療の進展度合いに応じての各患者さま対応の中で、いろいろと誤解なり問題が生じる。そういうことにつきまして、とにかく納得と話し合いとが基本でございます、十分意を尽くして納得していただけるようにということで、たびたび会議を開いておるのが実情でございます。それぞれのケースにつきまして、ケースの検討会等の中で、たびたび職員同士話をして誤解のないようにするにはどうするかということ等につきましては、本当にたびたび会議を持っておるのが実情でございますが、そういう悪風評の上がないように、積極的に病院職員も地域に出向いていろいろと市民病院の対応の仕方ということの啓発をして、理解を得られるようにということで、積極的に取り組んでいるところでございますが、中に議員がお耳にしたような事案があったということにつきましては、誠に遺憾でございますので、

極力そういうことのないように再度勉強を積むように取り組んでいきたいと、このように思っておるところでございます。何かそういうような事案がございましたならば、厳しくご指摘をいただきましたら、また勉強の材料になりますので、いろいろと情報を寄せていただきたいと、このように思っているところでございます。

どうかよろしくお願い申し上げます。

○議長（上田順康君）16番 中谷君。

○16番（中谷 晋君）ありがとうございます。自分たちも含めてでございますけれども、職責については十分の責任を持って対応すべきであるというふうに認識しております。

以上をもちまして私の質問を終わります。

○議長（上田順康君）これをもって、16番 中谷君の一般質問は終わりました。